

第 2 次総合計画に対する町長の想いについて

第 5 回審議会の後、委員の皆様にご意見を伺いました。
この結果、

- 6 票 定住の促進
- 5 票 観光の振興
- 3 票 地域全体での特色ある教育、学校教育の充実、良質な生活基盤の充実
戦略的な土地利用の推進、健康づくりの推進
- 2 票 生涯スポーツの推進、自助・共助・公助の連携、国際交流・多文化理解の推進
持続可能な行政運営の推進
- 1 票 子育てサポートの充実ほか 9 項目

という結果でした。

いただいたご意見と合わせ寶達町長に伝えたと、下記のご意見をいただきましたので、紹介します。

総合計画の策定において「どの項目が重要か」というのは難しい問題です。
当然「全て」重要なのですが、計画の方向性を考える上での重要性を考えます。

計画の最大の目的は「宝達志水町として自治を続ける」ことであり、現時点において、全ての人が考える様に出来る限り多くの人口の確保に努めることです。

そのためのキーワードは「繋がり」です。
全ての町民は理由があってこの町に住んでいます。

「この町で生まれたから」

「結婚したから」

「就職したから」

「この町が好きだから」

町民一人ひとりに理由があり、誰かと、また何かとの繋がりがあります。

色んな面で居住の制限がなくなってきました。

かつては「長男だから住まなければならない」という制限はありましたが、

今では慣習に縛られる必要はありません。

人を引き付ける魅力が無ければ町民の転出は止みませんし、魅力に乏しく人の転出が続く町というのは住み続ける人にとっても空しいものです。

ところで、全ての人がこの町で一生を過ごすわけではありません。

特に若い人にとっては狭い町です。

若い人にはもっと大きな世界を感じ取って欲しい。

チャンスがあれば別の町や別の国で、この町で育ったことを誇りとしてチャレンジしてくれることを望みます。

世界はどこまでも繋がっているのです。

町との繋がりが断たれる訳ではありません。

多くの人が転居をするきっかけとなるのは高校卒業となる 18 歳です。

つまり、18 年間に強い繋がりを作る必要があります。

「学校教育の充実」を最初に掲げたのは、学生時代に町への誇りを養い、強い繋がりを作る必要があるからです。

宝達志水町で育ったからこそ

「学校時代に能力を伸ばすことができた」

「優しく強く生きる基盤が出来た」

こういう無自覚の自覚を養う必要があるのです。

また、町と繋がり続けるには、学校においてだけでなく社会と様々な繋がりをもつ必要があります。

スポーツ、行事やイベント、集落の活動にどんどん参加して欲しいと思います。

ですが、居住の自由と同様に行事に参加しないのも自由です。

それでも繋がらなければならないという強い思いで参加を求めるのが大切です。

昔は慣習等で守られていた人の繋がりを、これからは

「誰もが自慢し、誰もが誇れる町」

と共感する中で大切にする必要があります。

施策の大綱に掲げた 29 項目は全て繋がり続けるための基盤と考えます。

「どれを重点的に実施する必要があるのか」

という問題は存在しないとご理解下さい。

ところで、委員の皆さんに 29 項目から重要と思われるものを選択して頂いたアンケートでは以下の項目が多く選ばれました。

a. 地域全体での特色ある教育

b. 定住の促進

c. 観光の振興

a はこれまで述べてきた「繋がり」を媒介し続けるために大切な項目です。

b は様々な取組みの複合的な成果として得られますが、住居の確保を支援するだけでなく「住民の幸せと社会の豊かさ」が基盤であり全ての施策の成功の上に成り立つものです。

c は優れた観光資源を今以上に活かした上での振興を望む委員さんが多かったのだと思いますが、

更に大切なことがあります。それは、観光客に

「今だけ、ここだけ、あなただけ

といえるプレミアムな高い価値を提供することが不可欠なのである。」

これは内閣府等から観光カリスマに認定された山田桂一郎氏の言葉ですが、

観光だけでなく、住む人にとってもこうした価値が感じられることが重要なのではないのでしょうか。

そして、こうした実感を生み出すことが総合計画の精神です。

「誰もが自慢し、誰もが誇れる町」を育てる計画です。

「良さを伸ばし、弱点を克服する」「重要なものを選び出して順位をつける」こうした作業にとらわれず、その精神を体現する計画を生み出して頂きたいと思います。

基本構想に示しました通り、町民こそが町の宝です。

そして、将来のまちづくりを担う人が育って行くための計画としたいと考えています。

10年間のチャレンジを詰め込んで。